Emerging company vol.47に 弊社社長の講演について紹介されました





食糧難にあえぐ人々に提供も 長期保存可能なパンの開発に成功、 由となる「パンの缶詰」が生まれるきつ というひと言が、当社が注目いただく理 時被災地への食事というと乾パンが当た 阪神・淡路大震災が起こりました。 前。被災された方の「長期保存ができ 今からちょうど20年前の1995年、 やわらかなおいしいパンが食べたい」 当

Keynote Speech

小さな社会貢献が、会社にピカッと スポットを当ててくれる。

栃木県那須塩原市の小さなパン屋が、今注目されています。 長期保存ができ、かつやわらかくおいしい「パンの缶詰」を開発した 「バン・アキモト」が注目される理由や、これからの活動について 代表の秋元義彦氏にご登壇いただきました。

活動を続けてよかったと思いました。

続けなくてはいけない、

パン職人として

食べて、本当においしいという顔を ならない子供たちが、私が作ったパンを を持っていきました。明日の食事 なアフリカ、ケニアに、自分自身で缶詰 償提供しています。11年に食糧難が深刻

くれました。その顔を見て、この活動は

ています。 その回収は私たちがやります、と。ヤ 困っている人々に送るというシステム。 利用したら、 を購入いただき、2年間非常食として えたのが賞味期限3年の「パンの缶詰」 です。でも地球の裏側では、今日の食 捨てられる。それはこの缶詰でも同じ マト運輸に協力いただいて、 送っても限界があります。 日本では賞味期限の過ぎた食べ物は もない人たちがいる。無償で缶詰を 残りの1年間を食糧に そこで、考 実現させ

この両者を叶えるものを作る。試行錯誤

保存とやわらかでおいしい。矛盾する

嘉手納基地で米軍が購入してくれたんで なる……。そんなときに縁あって沖縄の ると売れて、でも時間が経つと売れなく を繰り返しやっと開発に成功。災害があ

す。その後、加入している経済団体の縁

研修させています。

とを条件に日本に呼び、

パン職人として

ナムの若者を対象に、将来独立するこ

アジアの若者にバン作りを指導 バン職人ができる社会貢献を模索。

活動をしています。缶詰に広告を載せ ることで少しでも安く買いやすくし、賞 缶詰にスポンサ を募る

> ろう? とお願いしています。 また現地には届いたら1行でもいいか素晴らしい宣伝になると思いませんか? のおなかを空かせている人に届ける。現 さまざまな壁がありますが、現在ベト パン屋を開店できるようにしています の若い人たちをパン職人にして、現地で い」。ではパン屋ができることはなんだ 口にしていたことは、「日本が戦地として アジアの地を踏んだ一人です。その父が ら感想等、 てくれたスポンサーを絶対に忘れない。 地で口にする人たちは、おなかを満たし しまったアジアに何かしらの貢献をした 私の父は生きていれば90代。 考えた末、今私たちはアジア あるいは写真を送ってほしい 戦争で

分の背中を押してくれる人たちが増え 社会にとっていいことはメディアも協力 めに、ほんの少しでいいから貢献すべき じ地球に生きているのだから、 社会性のあるビジネスをしています。同 ピカッと光る企業でいたい。そのために してくれる。ネットワ 私たちは小さな会社ではありますが 会社がピカリと輝きますよ。 クも増える。 社会のた



くれて、NASAが宇宙につれていって小さな会社が作ったものを米軍が認めて

食糧難の人々に、この「パンの缶詰」を無

長期保存パンの開発と同時に、世界の

うれしかったですね。

缶詰」を積載してくれたんです。 飛行の際に、スペースシャトルに「バンの 機会があり、彼の2009年3回目 で宇宙飛行士の若田光一さんと知り合う

栃木の

0

秋元 義彦氏 株式会社バン・アキモト 代表取締役 1953年年5月生まれ。大学卒業後、杉並区のパン屋・マルシャン入 所、78年株式会社パン・アキモトの前身、有限会社秋元ペーカリー

入社。96年に長期保存できるやわらかパン、「パンの缶詰」を発表。14年「カンブリア宮殿」(テレビ東京)に出演、高視聴率に。15

年8月、ベトナム・ダナン市に日本式パン屋「ゴチパン」をオープン。

味期限が近くなったら回収して世界中